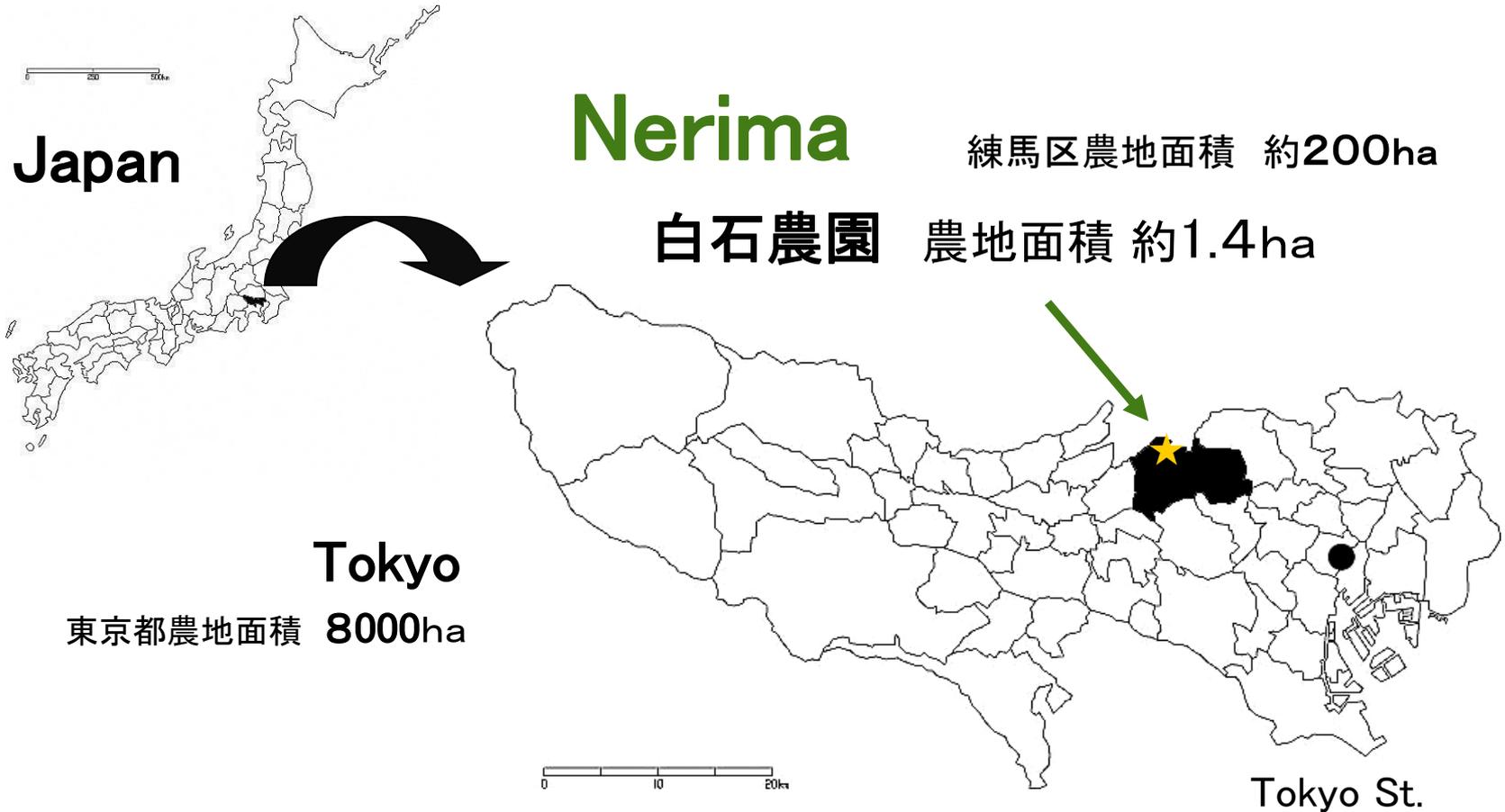


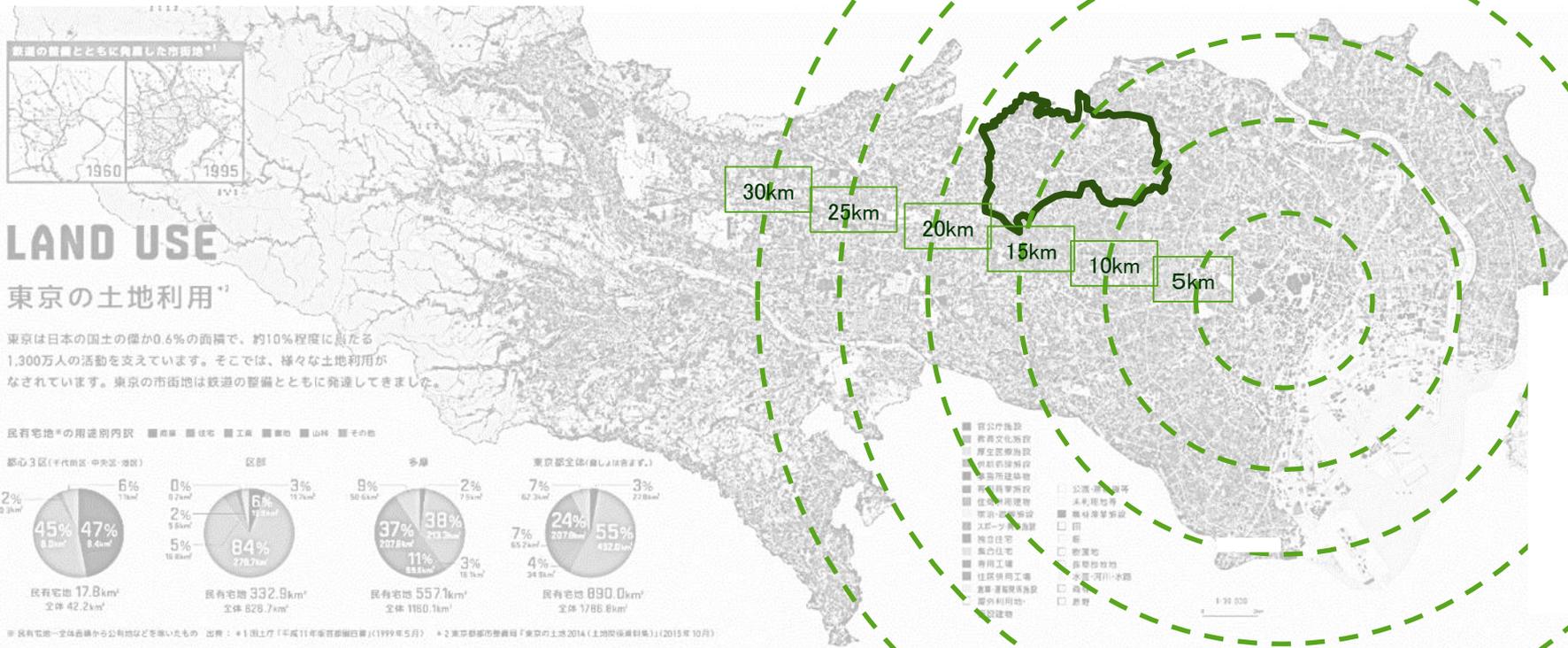
都市における農を活かしたまちづくり

—都市農業のとりくみ—



1600年代(江戸時代初期)から農業を継続

東京都練馬区は 都心から10km~20km圏内に位置します



出典：東京都市白書(2015年度版)

白石農園の事業内容

●野菜の生産販売

年間を通じて約100種類の野菜を生産しスーパーとの契約・直売所・直接販売・学校給食等で販売ブルーベリーの摘み取り園を開設

●農業体験農園 大泉風のがっこう

野菜作りのカルチャースクールとして125家族を受け入れ運営

●農業体験(食育)をすすめる

地域の小中学生に農業体験を指導・練馬大根の生産体験や社会見学・職場体験等年間1000人あまりを受け入れている

●精神障害者の社会適応訓練事業所

社会復帰訓練として精神障害者の受け入れ

●畑のレストラン「La毛利」

ブルーベリー観光摘み取り園



●●●●● 練馬かじゅあるファーム ●●●●●

ブルーベリー摘み取り園

● 摘取期間 7月17日～8月30日まで

● 開園日 全土日

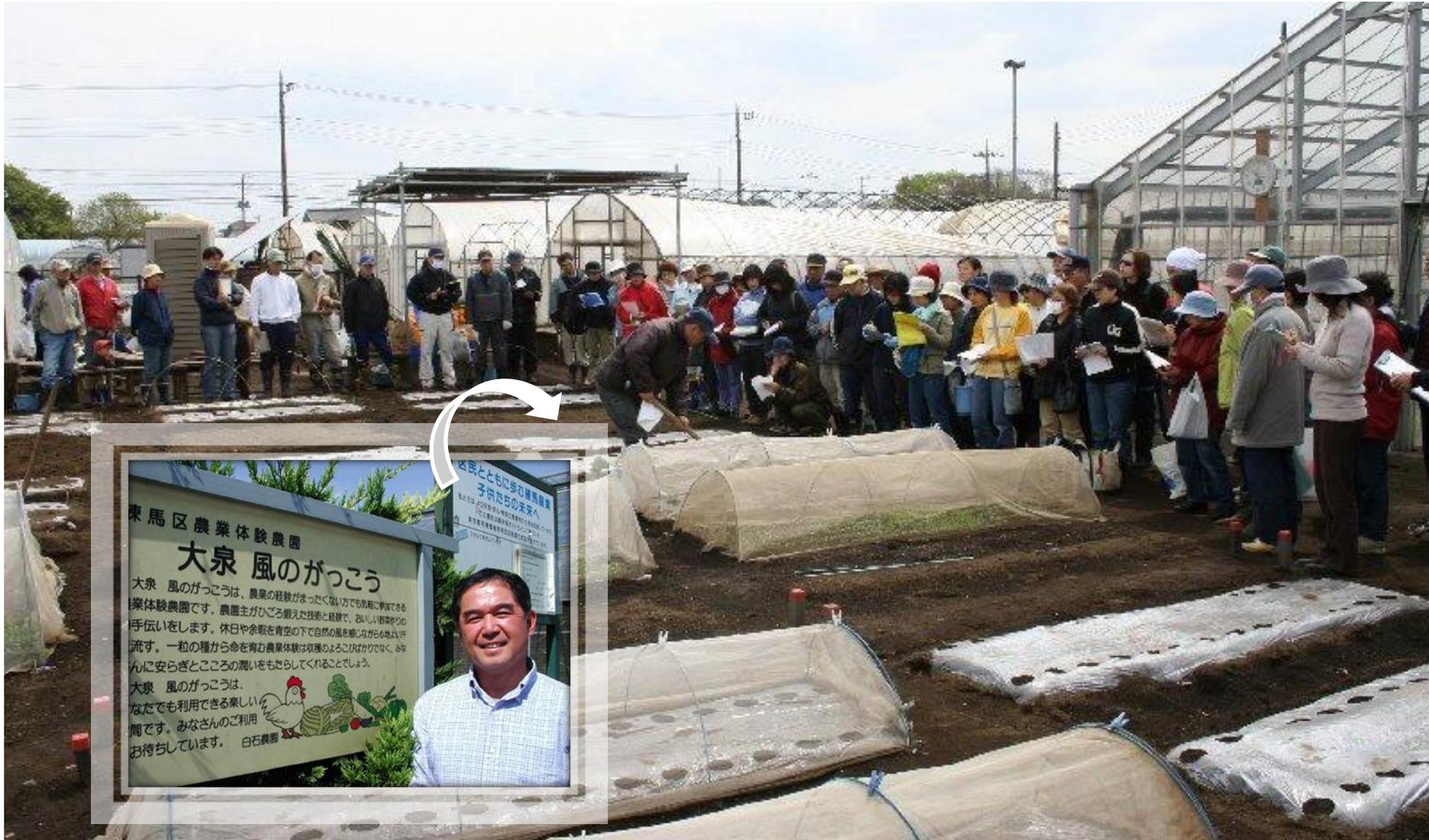
● 開園時間 10時00分～17時00分(午前中)

● 連絡先 080-5524-6022 詳細はコチラ

白石農園

JA東京あおばブルーベリー研究会 園主/白石好孝

農業体験農園（大泉 風のがっこう）は 野菜づくりのカルチャースクール



小学校の農業体験



農園に隣接したレストラン



都市農業(練馬区)の歴史

- ・1600年代、日本の首都が江戸に移り人口が急激に増加
- ・江戸近郊に農家も増え江戸に食料を供給(市場経済が始まる)
- ・1950年代まで、東京の至る所で農業が営まれていた
- ・1960年代、東京オリンピックを契機に都市化が進む
- ・1970年代から高度経済成長で人口の東京一極集中が加速
- ・1991年、保全する農地と宅地化する農地に分離
 - ↳ 保全する農地は税制・振興施策等行政支援
- ・2000年代、社会変化とともに都市農業の価値が再認識
- ・2015年都市農業振興基本法が制定される

江戸時代から近年まで、 農産物を都心の市場まで運び 帰りに下肥(人糞)を積んで帰ってきた

練馬を通る清戸道



(出典)
まちづくり情報誌こも
れび第56号
高松編 平成27
(2015)年10月
発行:みどりの
まちづくりセンター

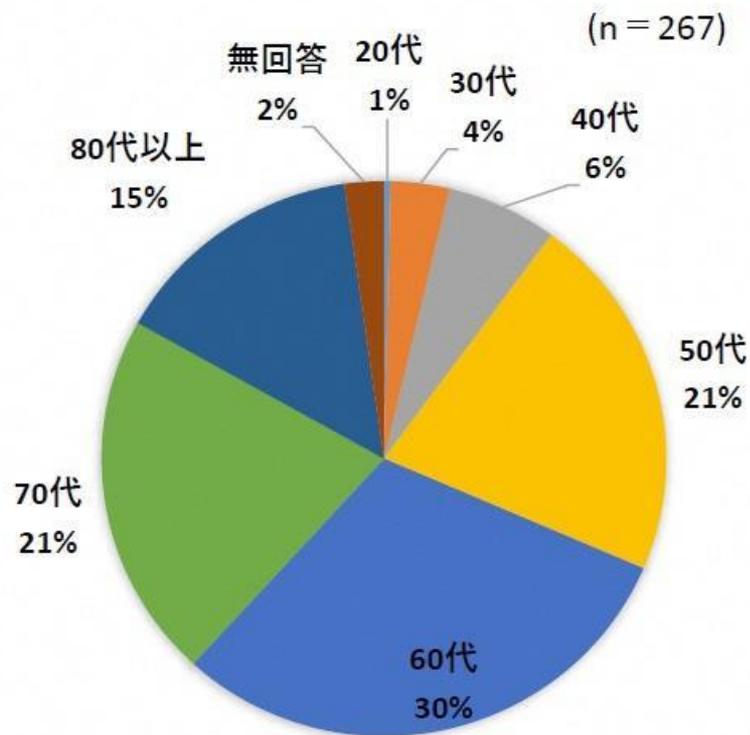


1940年代の練馬



2000年代の練馬

農作業の主な担い手の年代



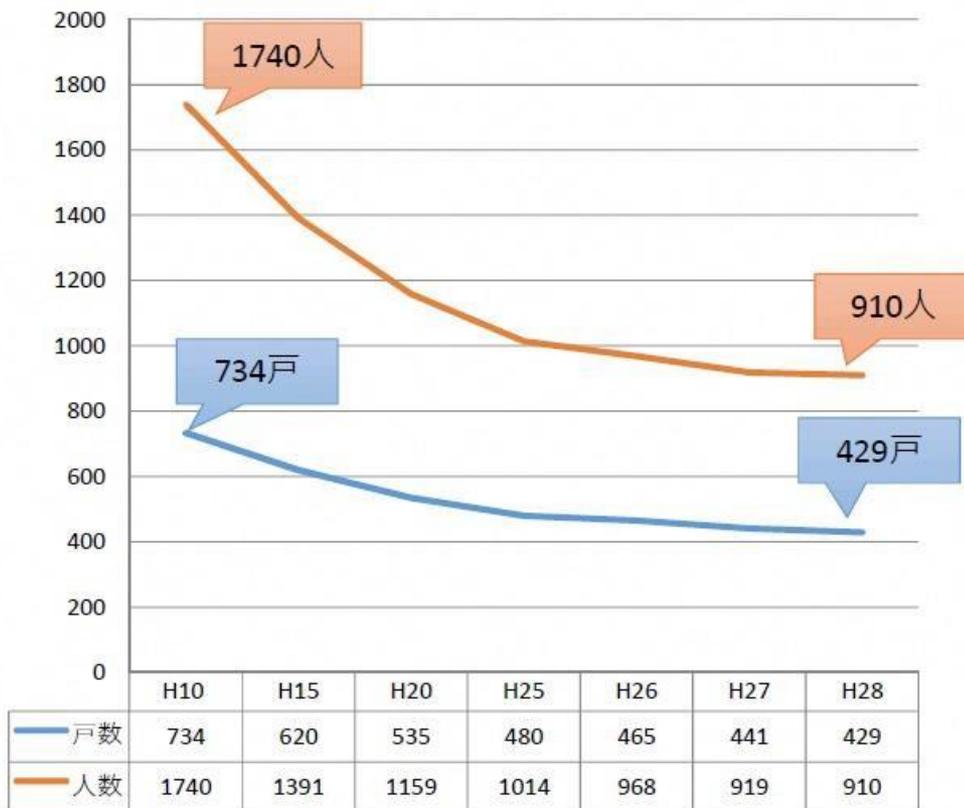
平成26年度練馬区農業者意向調査

【参考】

農業者平均年齢
 練馬区：63.5歳 東京都：63.9歳
 (出展：東京都農業会議H29.3)

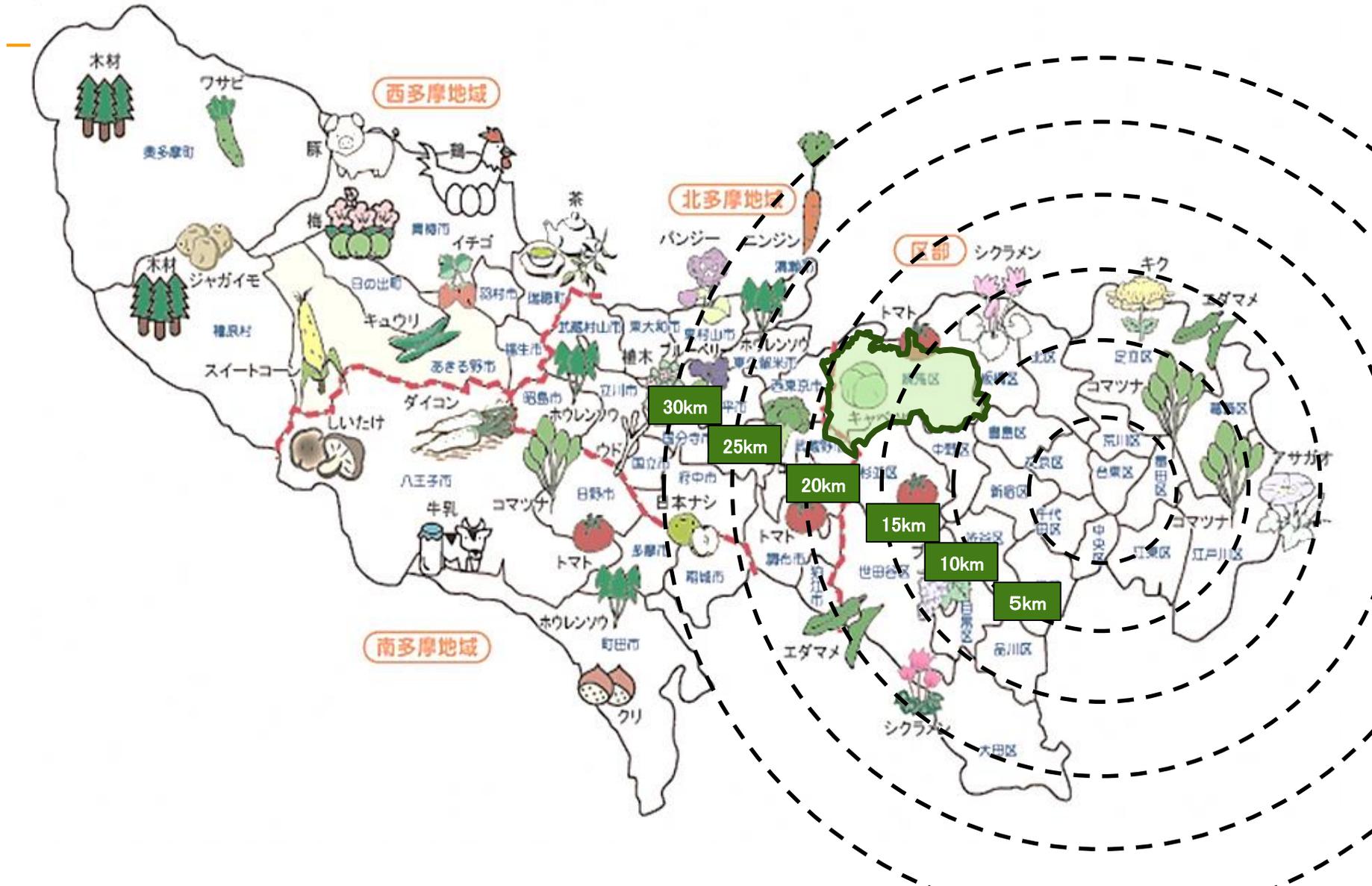
農家戸数・農業従事者数の推移

戸・人



練馬区農業経営実態調査

東京都の農作物



東京都の農業施策(2019年度予算 85億円)

目標「都市と共存し、都民生活に貢献する力強い東京農業」

担い手の確保・育成と力強い農業経営の展開	25億円
農地保全と多面的機能の発揮	9億円
持続可能な農業生産と地産地消の推進	14億円
その他 農業関連の都有施設の整備等	37億円

練馬区内にはJA直売所4件・ 100箇所を超える農家の直売所があります



- 直売所
- JA東京あおばの農産物販売所
- 農業体験農園

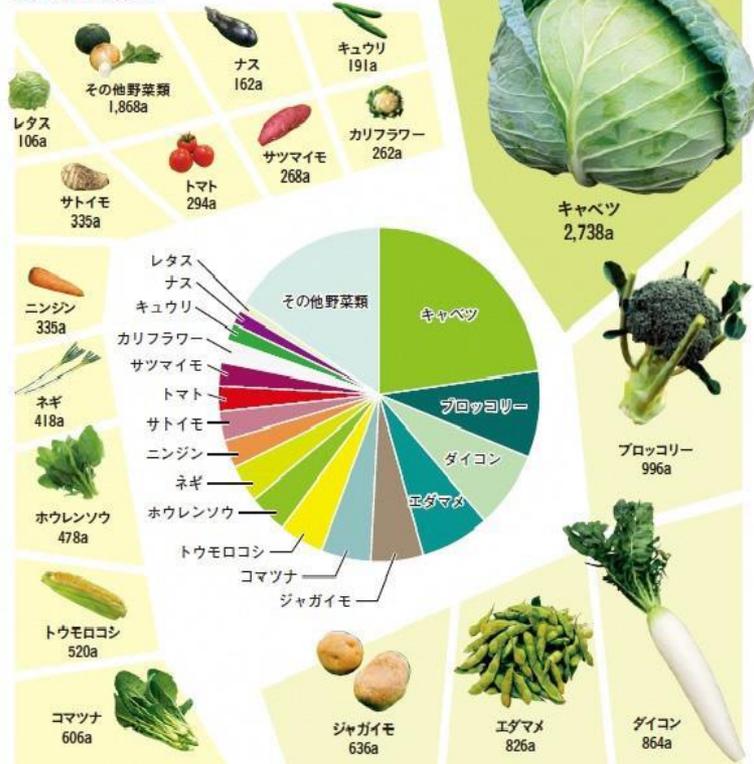
練馬の農産物(野菜・果樹・草・植木など)



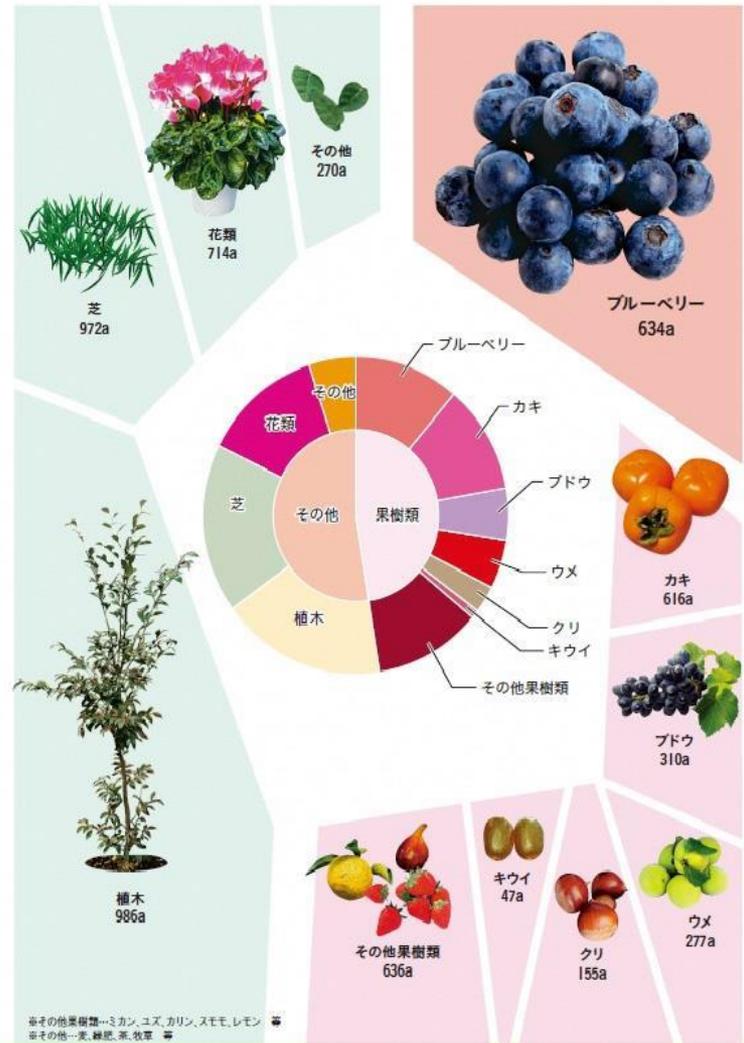
データ☆ダイジェスト

練馬でつくられている野菜や果実に植木など
練馬の農業を数字で紹介します。

野菜累計:11,903a



※その他野菜類→カボチャ、ミズナ、ハウサイ、タマネギ、シヨウガ、タラシ、オクラ、タケノコ、インゲン、カブ、キヌサヤ
※同一作物を同じ土地に年2回作付けし、収穫した場合は2回分の面積を計上しています。



※その他果樹類→ミカン、ユズ、カリン、スモモ、レモン
※その他→麦、雑穀、茶、牧草

